

## 『空には無数の安全な蛇口がある』

これは 2005 年雨水東京国際会議のポスターのキャッチフレーズです。

森林に降った雨水が谷を流れ、良質で豊かな水量を持つ川となります。われわれの日常生活に使用する水はこうした川を水源としています。井戸を使う場合もあります。しかし世界中には、こうした川のような水源が近くに無い、あっても水源の水質が悪いなどの問題を抱えた地域が少なくありません。

ポスターのキャッチフレーズは川や井戸などを水源にできない地域において、住宅などに降った雨を貯留して生活用水などに利用する方法をうまく示唆しています。

今回は貯留した雨水を安全で良質な飲み水として活用しているバングラデシュにおける株式会社天水研究所のプロジェクトを紹介します。

そうです、天水は雨水のことです。

株式会社天水研究所は、ドクトル天水のニックネームを持つ村瀬誠さんが代表取締役になっています。村瀬さんは東京都墨田区の職員当時から雨水利用に積極的に取り組んでいました。

以前、バングラデシュの多くの地方では住宅の近くにある池の水を飲んでいました。こうした池は多目的に使用されていたので、水質が悪く衛生上大きな問題となっていました。そのため井戸を掘り、清澄な水を得ることとなりましたが、こうした井戸水の中にはヒマラヤが起源といわれているヒ素が含まれているものが多くあり、新たな問題が発生しました。

また沿岸部では地下水に海水が混入するために、塩害の問題が加わります。



バングラデシュでは年間降雨量は多いのですが乾季には少ないのです。

家族 6 人が乾季に生活するために必要な雨水は 4.4 トンであるとし、天水研究所は 2008 年現地 NGO の協力を得て、雨水貯留容量 4.4 トンのコンクリート製タンク（上の写真）を開発し、2009 年にはこのタンク約 100 基を設置しました。

2010 年からはさらに JICA の協力を得て、マイクロクレジットによる販売システムを導入し、雨水タンクの普及をビジネス化しました。

マイクロクレジットはバングラデシュのグラミン銀行が起源と言われている仕組みで、女性など貧窮のどん底にある人々が小さな個人事業を起業する場合に、極めて少額のお金をグループに対して貸付け（連帯責任）をします。この融資により起業した人々は事業により収入を得て、その一部を返済にあて、貧困を脱することができるという新たな金融手法です。多くの地域で成功事例があり、注目されています。

さらには、最貧困層にも求めやすいタイ製のさらに低廉なタンクの技術移転を図りまして、マイクロレジットにより普及拡大に努めています。

右の写真は技術移転に成功した貯留量1トンのタンクです。貯留量あたりで従来のタンクより6～7割安いものになりました。



最貧困層にマイクロレジットを活用して雨水タンクを普及するために、雨水利用を組み合わせ、換金有機作物の栽培、有機養蜂、ジュートなどを活かしたハンドイクラフトや園芸製品及び地元主要産業である養殖エビを活用した魚醤など、女性などの雇用機会と所得を作り出すという活動も展開していく考えです。

一般的に水汲みは女性の労働であることが多く、水汲みの労働から女性が解放されて、その浮いた時間を他の労働に向けることができるという経済効果を考えたマイクロレジット活用であると考えられます。

天水研究所の雨水タンク事業は、低所得者への基礎的なサービスや製品をビジネスで提供すると共に、ビジネス展開にあわせてその地域の人々の所得増加や雇用創出を図るといふ BOP ビジネスの典型的な特長を持っています。

今回は、この BOP ビジネスを紹介いたします。

(山田)